

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化につての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光による地方創生①
- 観光による地方創生②
- 観光による地方創生③
- 観光による地方創生④
- 観光地と地方創生⑤
- 観光地のブランド化①
- 観光地のブランド化②
- 観光地のブランド化③
- フィールドワーク準備①
- フィールドワーク準備②
- フィールドワーク準備③
- フィールドワーク準備④
- フィールドワーク準備⑤
- まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、課題30％、プレゼンテーション20％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	f		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマについて、交通機関や施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- ガイダンス
- 移動困難者の特性
- 疑似体験Ⅰ
- 疑似体験Ⅱ
- 鉄道のユニバーサルデザインⅠ
- 鉄道のユニバーサルデザインⅡ
- バス・タクシーのユニバーサルデザインⅠ
- バス・タクシーのユニバーサルデザインⅡ
- 船舶のユニバーサルデザインⅠ
- 船舶のユニバーサルデザインⅡ
- 航空のユニバーサルデザインⅠ
- 航空のユニバーサルデザインⅡ
- 市内施設のユニバーサルデザインⅠ
- 市内施設のユニバーサルデザインⅡ
- まとめ

授業の方法

課題について、調査とプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

日頃から政府・地方自治体などの取組に興味を持つ

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、自主的なゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

Classroomで資料を配布する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

各自が興味あるテーマにより、フィールドワークやシンポジウム視聴などを行うので、講義時間帯以外の活動がある。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	f		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

研究テーマは「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 1 観光スポットのユニバーサルデザインⅠ
- 2 観光スポットのユニバーサルデザインⅡ
- 3 個人課題の研究発表調査
- 4 個人課題の研究発表調査
- 5 個人課題の研究発表調査
- 6 個人課題の研究発表調査
- 7 個人課題の研究発表調査
- 8 個人課題の研究発表調査
- 9 個人課題の研究発表調査
- 10 企画書を作成する。
- 11 企画書を作成する。
- 12 企画書作成
- 13 企画書発表
- 14 企画書発表
- 15 企画書発表&まとめ

授業の方法

発表とディスカッション形式で行う。

準備学修

日頃からユニバーサルデザインに興味を持つ

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、自主的なゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価する。

欠席について

大学規定通り。

テキスト

Classroomで資料を配布する。

留意事項

本ゼミは各自が興味あるテーマにより、フィールドワークやシンポジウム視聴などを行うので、講義時間帯以外の活動がある。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	g		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション、卒業研究構想発表
- 2 A Midsummer Night's Dream
- 3 A Midsummer Night's Dream
- 4 A Midsummer Night's Dream
- 5 A Midsummer Night's Dream
- 6 A Midsummer Night's Dream: Interpretation
- 7 A Midsummer Night's Dream: Presentation
- 8 卒業研究第一章構想発表
- 9 Frankenstein
- 10 Frankenstein
- 11 Frankenstein
- 12 Frankenstein
- 13 Frankenstein: interpretation
- 14 Frankenstein: presentation
- 15 卒業研究の第二章構想発表

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- ガイダンスと個人研究の進め方
- 個人研究テーマの発表
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

個人の研究テーマにつき「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、各自の研究テーマに関してプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション
- 個人研究の発表とディスカッション

授業の方法

発表とディスカッション形式で行う

準備学修

日頃からユニバーサルデザインについて興味を持って行動する

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、ゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価する。

欠席について

大学規定の通り

テキスト

Classroomにて適宜資料を配布する。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	f		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

個人の研究テーマにつき「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、各自の研究テーマに関してプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 1 個人研究の発表とディスカッション
- 2 個人研究の発表とディスカッション
- 3 個人研究の発表とディスカッション
- 4 個人研究の発表とディスカッション
- 5 個人研究の発表とディスカッション
- 6 個人研究の発表とディスカッション
- 7 個人研究の発表とディスカッション
- 8 個人研究の発表とディスカッション
- 9 個人研究の発表とディスカッション
- 10 個人研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表と質疑応答
- 12 卒業研究の発表と質疑応答
- 13 卒業研究の発表と質疑応答
- 14 卒業研究の発表と質疑応答
- 15 卒業研究の口頭試問

授業の方法

発表とディスカッション形式で行う

準備学修

日頃からユニバーサルデザインについて興味を持って行動する

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、ゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価する。

欠席について

大学規定の通り

テキスト

Classroomにて適宜資料を配布する。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	g		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 第三章原稿発表。
- 3 The Unquiet Graves: The Picture
- 4 教員からの添削をもとに1章を完成する。
- 5 The Unquiet Graves: Rats
- 6 The Unquiet Graves: The Casting Runes
- 7 教員からの添削をもとに2章を完成する。
- 8 The Unquiet Graves: The Experiment
- 9 The Unquiet Graves: “Oh, Whistle, Come to You, My Boy”
- 10 教員からの添削をもとに3章を完成する。
- 11 教員からの添削をもとに序章を完成する。
- 12 教員からの添削をもとに結論を完成する。
- 13 教員からの添削をもとに全体の推敲を確認する。
- 14 I, Robot: Catch That Rabbit
- 15 I, Robot: The Liar

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70％、レポート20％。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2	航空会社			

授業の到達目標

ホスピタリティのあり方について自分の意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができるためのKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を身に付ける。

授業の概要

ホスピタリティについて、障害者・高齢者・外国人・LGBTQIなどの特性を理解しながら学ぶ。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス（講義計画）、ホスピタリティとは？
- 2 ホスピタリティとは？
- 3 SDGs
- 4 LGBTQI
- 5 共生社会
- 6 肢体不自由者
- 7 視覚障がい者
- 8 聴覚障がい者
- 9 内部障がい者・知的障がい者・精神障がい者
- 10 発達障がい者
- 11 高齢者
- 12 外国人
- 13 その他の移動困難者
- 14 航空会社の移動困難者へのサービス
- 15 まとめ&定期試験

授業の方法

授業中に疑似体験やディスカッションなども取り入れながら進める。

準備学修

新聞記事やニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心掛ける

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規則の通り

テキスト

Classroomで資料を配布する。

参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」〔ホスピタリティ・マネジメント学原論〕（丸善株式会社）
塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）
福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）
山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）
高野 登「ホスピタリティノート」（かんき出版）

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合には、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に招き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

授業計画

- 1 受講のガイダンス
- 2 世界史の中の英語と文化①（ヨーロッパ/北アメリカ/オセアニア地域を中心に）
- 3 グループ課題の発表と討議
- 4 世界史の中の英語と文化②
- 5 世界史の中の英語と文化③
- 6 文化とは何か
- 7 異文化の認識
- 8 振り返り
- 9 価値観
- 10 差別を考える①
- 11 差別を考える②
- 12 異文化コミュニケーション
- 13 異文化摩擦/カルチャーショック
- 14 全体のまとめ
- 15 試験

授業の方法

講義を中心とし、グループ発表とディスカッションを取り入れる。
また、各項目ごとに指定するWebページに自身の意見や考えを復習として提出し、それらを共有することで学びを深める。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（50%）、定期試験（50%）

欠席について

学則に従い、欠席は減点とする。

テキスト

池田 理知子・塙幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション―身近な「異」から考える』（三修社）

参考図書

必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で構成される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
（観光の語源と定義・日本観光史他）
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
（観光と環境）
- 5 新時代の観光文化
（観光資源とコンテンツツーリズム）
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
（観光政策と仕組み）
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30％ 統括試験70％

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

観光庁のHPや観光白書などを通じて観光に関する専門用語を始め基本的な知識と考え方を習得する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。
その上で国際観光の重要性と我が国の現状を認識し、今後の国際交流のあり方や課題等について考察できるとともに様々な対応方策について自らの考えをまとめ、発表することができる。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、OECD、日本の観光庁・JNTOなどのデータを基に、日本と諸外国の観光政策、国際交流の意義を理解する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス（講義計画）
- 2 観光の魅力
- 3 都市コード・空港コード・航空会社コード
- 4 日本の観光政策と受入体制Ⅰ
- 5 日本の観光政策と受入体制Ⅱ
- 6 日本の観光動向Ⅰ
- 7 日本の都市の観光動向Ⅱ
- 8 訪日外国人消費行動
- 9 世界の観光政策と受入体制Ⅰ
- 10 世界の観光政策と受入体制Ⅱ
- 11 世界のMICE動向
- 12 世界の観光動向Ⅰ
- 13 世界の観光動向Ⅱ
- 14 日本の問題点
- 15 総まとめの後定期試験60分

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についての各自からの発表やグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

ニュースなどを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集する。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の既定の通り。

テキスト

Classroomで講義資料を配布する。

参考図書

「観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

自分の興味のある業界・企業を研究することにより、グローバル社会における企業の動向や社会的取組を理解し、就職活動での業界や職種を選択できるようにする。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A) 自律と(In) 国際性を養う。

授業の概要

業界研究では、世の中の業界の種類や特徴を知り、自分の興味のある業界の知識を深める。

また、企業研究では、自分の興味のある企業の基本情報・事業内容・制度・業界での位置づけ・他社との違いなどの知識を深める。また傾聴力と柔軟性を向上するため、グループディスカッションを行った後、発信力とプレゼン能力向上のため、発表も行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
 - 2 個別業界研究
 - 3 個別業界研究のグループディスカッション
 - 4 個別業界研究
 - 5 個別業界研究のグループディスカッション
 - 6 個別業界研究の発表
 - 7 個別業界研究の発表
 - 8 個別企業研究
 - 9 個別企業研究
 - 10 個別企業研究のグループディスカッション
 - 11 個別企業研究
 - 12 個別企業研究
 - 13 個別企業研究のグループディスカッション
 - 14 企業研究の発表
 - 15 企業研究の発表
- まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッション・発表を中心とする。

準備学修

日頃から企業活動のニュースに興味を持ち、社会に関心を持つこと。

課題・評価方法、その他

評価は平常点20%、業界研究発表 40%、企業研究発表 40%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

下記の2冊の内、業界研究と企業研究と各1冊づつ各自購入すること。
(電子書籍でも、紙の本でもどちらでも良い)

<業界研究>

- ・日経 業界地図 (日本経済新聞出版)
- ・会社四季報 業界地図 (東洋経済新報社)

<企業研究>

- ・会社四季報 (東洋経済新報社)
- ・日経会社情報 (日本経済新聞出版)

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目指す。

1. 訪問地での観光資源(特に世界遺産)と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
 2. 旅行会社の海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
 3. グループワーク課題を実践する。
 4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。(総合旅程管理主任者資格の取得)
- このクラスではKAISEI パーソナリティのA(自律)、S(奉仕)、In(国際性)を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。またそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地では旅行会社の協力を得ながらホテル視察、観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。また旅程管理研修(3日間)を受講する必要がある、終了テストに合格する必要がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション・事前準備の確認
- 2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
- 3 旅程管理研修①
- 4 旅程管理研修②
- 5 旅程管理研修③
- 6 実地研修1日目:関空出発・目的地
- 7 実地研修2日目:ホテル研修・現地旅行会社訪問
- 8 実地研修3日目:研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験
- 9 実地研修4日目:研修地の移動
- 10 実地研修5日目:ホテル研修・現地旅行会社訪問
- 11 実地研修6日目:日系企業訪問
- 12 実地研修7日目:帰路の空港見学・帰国
- 13 現地でのグループワークの事後発表の準備
- 14 現地でのグループワークの事後発表
- 15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また旅程管理研修の講義を受け、試験に合格する必要がある。研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト(受講者に事前説明有り)

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座(ツアーコンダクター)と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更又は中止になる事がある。また研修実施には最少催行人員(10名)の規定が適用される。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

航空会社の機内の業務に必要な基本的英語を通し、TOEICスコアを上げる。

KAISEI/パーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を学ぶ。

授業の概要

エアラインスタッフが使用する英語を通し、「丁寧なおもてなしの会話表現」を学ぶ。

また、ビジネスに必要な基本的な知識も学ぶ。

TOEIC関連の問題にも対応する

授業計画

- 1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）、実力テスト
- 2 Unit 7
- 3 Unit 7
- 4 Unit 8
- 5 Unit 8
- 6 Unit 9
- 7 Unit 9
- 8 Unit 11
- 9 Unit 11
- 10 TOEIC模擬テスト
- 11 TOEIC模擬テスト
- 12 TOEIC模擬テスト
- 13 Unit 12
- 14 Unit 12
- 15 総括 & 試験(60分)

授業の方法

CDや映像も活用して授業を行う。

準備学修

教科書を活用して予習・復習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％

欠席について

大学の規則の通り

テキスト

Hospitality English 著者／編集：ANA総合研究所 発行元：HALICO

留意事項

秋学期期間中の学内TOEIC若しくは公式TOEICの受験が平常点に反映される。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Tourism			13937	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

航空会社の空港の業務に必要な基本的英語を通し、TOEICスコアを上げる。

KAISEI/パーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を学ぶ。

授業の概要

エアラインスタッフが使用する英語を通し、「丁寧なおもてなしの会話表現」を学ぶ。

また、ビジネスに必要な基本的な知識も学ぶ。

TOEIC関連の問題にも対応する。

授業計画

- 1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）、実力テスト
- 2 Unit 1
- 3 Unit 1
- 4 Unit 2
- 5 Unit 2
- 6 Unit 3
- 7 Unit 3
- 8 Unit 4
- 9 Unit 4
- 10 TOEIC模擬テスト
- 11 TOEIC模擬テスト
- 12 TOEIC模擬テスト
- 13 Unit 5
- 14 Unit 5
- 15 総括 & 試験(60分)

授業の方法

CDや映像も活用して授業を行う。

準備学修

教科書を活用して予習・復習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％

欠席について

大学の規則通り

テキスト

Hospitality English 著者／編集：ANA総合研究所 発行元：HALICO

留意事項

春学期期間中の学内TOEIC若しくは公式TOEICの受験が平常点に反映される。

秋学期のBusiness Englishも併せて履修すると更なる英語力の向上が期待される。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（国内）			13969	Ⅲ	春	30名
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～4週間となる。尚、体験発表は10月上旬（秋学期・土曜日）に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 インターンシップとは
- 3 企業コンプライアンスについて
- 4 業界研究①
- 5 業界研究②
- 6 エントリーシート作成①（自己PR）
- 7 エントリーシート作成②（志望動機など）
- 8 インターンシップ受け入れ企業研究
- 9 インターンシップの目標設定
- 10 就業体験①
- 11 就業体験②
- 12 就業体験③
- 13 就業体験④
- 14 就業体験⑤
- 15 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が修業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。（最低5日間の就業体験が必要）
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。
履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

ホスピタリティ産業におけるマーケティングやカスタマージャーニーを学修し理解する。また、企業の戦略や組織と従業員満足の関係性を理解する。
このクラスはKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

ホスピタリティ産業におけるマーケティングや他産業との違いについて、具体的な企業の実例に基づき学習する。

授業計画

- 1 ホスピタリティとは？
- 2 ホスピタリティⅠ
- 3 ホスピタリティⅡ
- 4 DisneyⅠ
- 5 DisneyⅡ
- 6 Disney & Universal Studio
- 7 空港
- 8 航空会社
- 9 マーケティングⅠ
- 10 マーケティングⅡ
- 11 マーケティングⅢ
- 12 カスタマージャーニーⅠ
- 13 カスタマージャーニーⅡ
- 14 サービスとホスピタリティ
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についてのレポートやグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

日ごろからサービスやホスピタリティに関心を持つ

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

Classroomでデータを配布する。

参考図書

『ホスピタリティ・マネジメント』同文館 徳江純一郎
『ホスピタリティマネジメント』白桃書房 吉原敬典

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
栗木 契	選択	2	観光関連事業の計画策定・アドバイザー・審査員・研修講師			

授業の到達目標

観光マーケティングに関わる多様なプレーヤーの役割を理解し、それらのプレーヤーのマーケティング・マネジメントのポイントを理解する。この授業ではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、I（知性）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

観光マーケティングには旅行業、宿泊業、航空輸送業、鉄道業といった多様なプレーヤーが関わる。さまざまな企業や地域の事例を踏まえて、これらのプレーヤーの役割と、そのマーケティング・マネジメントのポイントを学ぶ。毎回の授業では講義に加えて、事例をもとにしたグループディスカッションと、学んだ知識の確認のための小テストを行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光事業のマネジメント特性(1)
- 3 観光事業のマネジメント特性(2)
- 4 旅行業のマネジメント
- 5 宿泊業のマネジメント
- 6 航空輸送業のマネジメント
- 7 鉄道事業のマネジメント
- 8 テーマパークのマネジメント
- 9 空港のマネジメント
- 10 IRのマネジメント
- 11 観光協会のマネジメント
- 12 地域の観光まちづくり
- 13 地域ブランドの構築
- 14 観光とウェブビジネス
- 15 まとめと定期試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回の授業の小テスト（60％）、定期試験（40％）

欠席について

出席点はないが、毎回の授業の小テストの得点が成績評価につながる。毎回の出欠確認は行う。

テキスト

高橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎、2016年

参考図書

石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎『ゼミナール・マーケティング入門・第2版』日本経済新聞出版、2013年

教員連絡先

Kuriki@kaisei.ac.jp

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

航空機はどのようにして飛んでいるのか、アライアンスの必要性は何か、ユニバーサルサービスの重要性など、エアラインビジネスの概要をさまざまな角度から多面的に学習して理解する。また民間航空の発展や航空政策の規制緩和などについて、その概要や歴史的な流れ、社会・経済への影響などを理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、経営特性、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについて学修する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス（講義計画）乗員・CA・整備、グランドスタッフ等エアラインの仕事の概要
- 2 航空機と航空管制の概要
- 3 民間航空の歴史
- 4 航空自由化への流れ
- 5 空港政策
- 6 エアラインビジネスの特性
- 7 ネットワークの考え方とアライアンスの概要
- 8 航空運賃とレベニューマネジメント
- 9 FFP・ブランド戦略・CS戦略
- 10 LCC（格安航空会社）・ビジネスジェット
- 11 航空とホスピタリティ、ユニバーサルデザインの重要性
- 12 航空貨物ビジネス
- 13 航空と観光と空飛ぶ車
- 14 未来の航空・宇宙産業
- 15 まとめ、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

関連事項をWEB等で参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 50%、定期試験 50%

欠席について

大学の規定の通り。

テキスト

Classroomにて講義資料を配布して、パワーポイントを使用して説明する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』（株）ANA総合研究所

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。